

約3週間の米国訪問で「新生サウジ」を 売り込んだムハンマド皇太子



(一財) 国際開発センター 研究顧問 畑中 美樹

はじめに

サウジアラビアのムハンマド皇太子は2018年4月7日、3週間弱に亘った米国訪問を終えた。皇太子は3月20日から就任後初となる米国訪問を行い、同日にはトランプ大統領やマティス国防長官をはじめとする主要閣僚、上下両院議長といった米政界の重鎮と会談し、イラン核問題、イエメン内戦など中東の主要問題について議論している。

だが今回の皇太子の訪米で特に注目されるのは、中東情勢など世界の政治問題について米国要人と深く話し合ったのがほぼ同日だけであったことである。皇太子は、その後の米国の著名ビジネスマンらとの会談では、同国の進める社会・経済改革などを説明すると共に、脱石油に向けて打ち出した「ビジョン2030」に言及しサウジ進出やサウジ投資を熱心に求めていた。

米東岸ではニューヨーク、ワシントン D.C., ボストンを訪問

訪米したムハンマド皇太子は、3月20日から30日まで首都ワシントン D.C. やニューヨークなどの東岸の主要都市を訪れている。その間のビジネス面での主な動きをまとめれば表1のようになる。

表1 ムハンマド皇太子の米国東海岸での主な動き

月 日	場 所	主 な 動 き
3月22日	ニューヨーク	<p>★同夜、駐米・サウジ大使館の主催する「サウジ・米国パートナーシップ祝典」がアンドリュー・メロン・ホールで開かれ、ムハンマド皇太子が次のように述べた。即ち、「サウジは変革期にある」「変革期は、我が国のパートナー国と協働して機会をつかむ局面である」(サウジガゼット紙 2018年3月23日) と。</p> <p>またハーリド駐米・サウジ大使も「約80年前の石油発見後、米国の公的・民間部門がサウジの近代化に果たした重要な役割同様に、米国はサウジのビジョン実現において主要な役割を果たしうる」(同上) と述べた。</p>

	ワシントン D.C	<p>★ムハンマド皇太子がジム・ヨン・キム世界銀行総裁と会談し、経済多角化計画などを説明した。</p> <p>★同夜、ペンス米副大統領がムハンマド皇太子の歓迎ディナー・パーティーを主催した。</p> <p>★同日のアラブ・ニュース紙が、サウジ総合投資院（SAGIA）の発表として2018年2月までの米国の対サウジ投資が2,070億リヤル（550億ドル）に達したと報じた。</p> <p>内訳は工業部門が95事業、1,930億リヤル（510億ドル）、サービス部門が245事業、135億リヤル（30億ドル）、貿易部門が9事業、3億リヤル（7,900万ドル）、不動産部門が2事業、1,600万リヤル（400万ドル）、一時的ライセンスが16事業、200万リヤル（50万ドル）であった。</p> <p>なお、2017年の投資額は3億8,200万リヤル（1億100万ドル）であった。</p>
24日	－	<p>★ワシントン・ポスト紙がムハンマド皇太子とのインタビュー記事を掲載した。同皇太子は以下の諸点を強調した。</p> <p>①米国訪問の目的の一つは米国の対サウジ投資の促進である。</p> <p>②サウジは世界のウラニウム埋蔵量の5%を保有する。</p> <p>③このウラニウム資源を活用しないのは、あたかも我が国が豊富な石油資源の利用を止めるようなものだ。</p> <p>④ジャレッド・クシュナー中東上級顧問と私の関係は、両国公式関係の一部である。</p> <p>⑤イスラムは穏健で寛容な宗教なのだが、近年は保守派に拉致されていたようなものだ。</p>
25日	ボストン	<p>★ムハンマド皇太子がボストンを訪れ、以下の研究所、大学などを訪問し、技術・研究分野で7つの合意を締結した。</p> <p>①IBM ワトソン保健センター（デビッド・ケニー副所長）。</p> <p>②サチューセッツ工科大学（MIT, L・ラファエル・リーフ学長）。</p> <p>③MIT バイオカタロニックス研究所。</p> <p>④MIT イノベーション・フォーラム（丁度開催していたもの）。</p> <p>⑤ハーバード大学（アラン・ガーバー学長、最高学術責任者）。</p> <p>⑥以下学長などとの会談（アラン・ガーバー・ハーバード大学学長・最高学術責任者, L・ラファエル・リーフ MIT 学長, ロバート・A・ブラウン・ボストン大学学長, アンソニー・モナコ・タフツ大学学長, ジョセフ・E・アウンノースイスタン大学学長, ケリー・ヒーレイ・バブソン・カレッジ学長）。</p> <p>なお、皇太子のボストン滞在中に締結された協定は以下の通りである。</p> <p>①サウジアラムコ・MIT 協力協定（エネルギー部門での維持可能発展分野に関して）</p> <p>②サウジ基礎産業公社（SABIC）とMITの協力協定（天然ガス熱分解分野に関して）</p> <p>③アブドゥラ国王科学技術大学（KAUST）とMITの協力協定（複合エンジニアシステム研究センターの創設に関して）</p> <p>④アブドゥラ国王科学技術大学（KAUST）とブリガム婦人病院の協力協定（生物医学の中核的研究拠点化に向けて）</p> <p>⑤アブドゥルアジズ国王科学技術都市（KACST）、アブドゥラ国王科学技術大学（KAUST）と技術研究製品開発社のパートナーシップ協定におけるワクチン、バイオテク製造センターの創設に向けて）</p>

		<p>⑥アブドゥルアジズ国王科学技術都市（KACST）とMITのイブン・ハルドゥーン・フェローシップ（奨学金）供与。</p> <p>⑦GE 保健と富士フィルム・ディオシニス・バイオテクノロジーズ（バイオ医薬品の受託製造会社）の生物学的製剤及びワクチン開発センターの創設に向けた合意（MERS向け設備の供与及び処置方法の開発を目指す）。</p>
26日		不詳
27日	ニューヨーク	<p>★「2018 サウジ・米国 CEO フォーラム」が開催され、トランプ政権の閣僚や両国企業幹部200人超が参加した。</p> <p>因みに、参加した主な企業幹部は、ジェイミー・ダイモンCEO・JP モルガン・チェイス、ヘンリー・クラビスCEO・KKR、アデナ・フリードマンCEO・ナスダック、アンドリュー・リヴェリス会長・ダウデュポンなどであった。</p> <p>なお、同フォーラムは5セッションのほか3つのワークショップも設けられた。</p> <p>サウジ企業と米国企業は、同フォーラム開催中に総額200億ドルに上る36もの覚書を結んでいる。それらは、例えば次のようなものである。なかでもサウジアラムコは米企業14社と100億ドルの協定を締結した。</p> <p>①サウジアラムコ/グーグル・パートナーシップ覚書（国家クラウドサービス及びその他技術供与）。</p> <p>②サウジアラムコ/レイソン・パートナーシップ覚書（国家サイバーセキュリティ確立）。</p> <p>③アブドゥルアジズ世界文化センター/ナショナル・ジオグラフィック期間5年コンテンツ・イニシアチブ（サウジの創造性及び娯楽の地域センター化）。</p> <p>④サウジ産業開発基金（SIDF）/JP モルガン覚書（産業金融）。</p> <p>⑤アル・ルシャイド/インターナショナルSOS覚書（遠隔地診療所向け医療サービス供与）。</p> <p>また同フォーラムでは、ムハンマド・アル・ジャダアン・サウジ財務相が次のような開会演説を行い、サウジを売り込んでいる。</p> <p>①サウジの今後の道は、金融・財政部門など挑戦的で包括的な課題を抱えている。</p> <p>②サウジは（ビジョン2030の目標年である）2030年には、両国企業にビジネス機会を創出する拡大し続ける経済となることを目指している。</p> <p>③このフォーラムはサウジが未来に焦点を当てていることを示すものである。</p> <p>④手つかずのサウジの潜在可能性は巨大だ。</p> <p>⑤皆さんは本日、サウジの誓約と機会を信じてここにやって来られた。</p> <p>⑥我々は本日、我々のパートナーたちと働きたいことを示すためにここにやって来た。</p> <p>またウィルバー・ロス米商務庁長官が次のような閉会スピーチを行い、フォーラムを締めくくっている。</p> <p>①私はサウジが変革を遂げる可能性は高いと考える。ここに参集されたような参加があれば、サウジの成功の可能性は一層高まろう。</p>

		<p>②サウジは非石油部門の多様化，化石燃料以外の自然資源の探査，巨大プロジェクトの創設により変革しようとしている。</p> <p>③「NEOM」は世界で最もスマートな都市を目指し，「紅海リゾート」は信じがたいほどの観光の場所であり，リヤド郊外のレジャー・リゾートである「キッディーヤ」はディズニーランド以上の規模で本当に驚くべき事業である。</p> <p>★ムハンマド皇太子がソフトバンクの孫社長と会談し，同社がサウジアラビアで1億4,000万戸に電力を供給できる発電能力200ギガワットとなる総額2,000億ドル（約21兆円）規模の太陽光事業を推進する覚書に調印した。</p>
28日	ニューヨーク	<p>★ムハンマド皇太子が40人超の企業幹部との会談で，3大巨大事業である「紅海」「キッディーヤ」「NEOM」について協議した。</p> <p>★ムハンマド皇太子がブルームバーグ元ニューヨーク市長と談笑した。</p>
29日	ニューヨーク	<p>★ムハンマド皇太子がモルガン・スタンレーのジェームズ・ゴーマン CEO，JP モルガンのジェイミー・ダイモン CEO と会談し，今後の協力のあり方や戦略的パートナーシップの可能性について意見交換した。</p> <p>★ムハンマド皇太子が「ニューヨーク経済クラブ」のテリー・ランドグレン会長及びクラブ会員たちと会談し，サウジで改革が行われ成長しているのは経済部門だけではなく，サウジ人の能力の向上も同様に改善され伸びており，それこそがビジョン2030の達成の基礎であることを説明した。</p> <p>★「ニューヨーク経済クラブ」が「サウジアラビアの新経済機会」と題したパネル・ディスカッションを開催した。</p> <p>サウジ側からは，マジッド・アル・カサビ博士・商業投資相，ハーリド・アル・ファリーハ・エネルギー産業鉱物資源相，ムハンマド・アル・ジャダアン財務相が出席し，1）最近のサウジ経済動向，2）米国ビジネスにとっての新たな機会，3）「ビジョン2030」下での市場改革について説明後，意見交換・質疑応答が行われた。</p>

出所：各種報道より作成。

サウジアラビアの太陽光事業で覚書を締結したソフトバンク

ソフトバンクの孫社長は3月27日，ニューヨークでムハンマド・サウジ皇太子と会談し，同社がサウジアラビアで1億4,000万戸に電力を供給できる発電能力200ギガワットとなる総額2,000億ドル（約21兆円）規模の太陽光事業を推進するとの覚書に調印した。この覚書について，ソフトバンクのマッシュュー・ニコルソン報道官は次のように説明している。

- ① 建設は本年から開始される。
- ② それぞれが3ギガワットと4.2ギガワットとなる最初の太陽光発電所の稼働は2019年からとなる。
- ③ 「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」が第一フェーズ向けに10億ドル（約110億円）を拠出し，残余はプロジェクト・ファイナンスとなる。

現時点では具体的な進め方などは次のようになる見通しである。

- ① ソフトバンクが2017年5月、サウジ政府系ファンドや米アップルなどの支援を受けて設立した「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」(出資規模930億ドル超)が資金を拠出する。
- ② 当初は約50億ドルを投下して、2019年(での稼働)を目途に合計発電能力7.2ギガワットの太陽光発電所2ヵ所を建設する。
- ③ パネルなどの発電設備に関しては当初は輸入に依存するものの、2～3年後にはサウジ国内で製造する工場を建設し切り替えていく。
- ④ 同時にサウジ人エンジニアの教育・訓練施設も設置する。
- ⑤ これにより2030年までに10万人のサウジ人雇用を創出する。
- ⑥ 最終的にはサウジ国内総生産(GDP)を120億ドル拡大することが見込まれる。

なお、ニューヨークのプラザホテルで記者会見したムハンマド皇太子と孫社長は、壮大な太陽光事業についてそれぞれ次のように発言している。

＝ムハンマド皇太子＝

「これは人類史にとって大きな一歩である」

「大胆でリスクを伴う事業だが、やり遂げられることを望む」

＝孫ソフトバンク社長＝

「サウジには偉大な太陽と利用可能な広大な土地があり、素晴らしい技術者と労働者もいる。だが最も重要なのは、最良で最も壮大なビジョンがあることである」

但し、ブルームバーグ・ニュー・エナジー・ファイナンス(BNEF)の太陽光分析の責任者ジェニー・チェイス氏は、この覚書に次のような辛辣なコメントをしている。

- ① ソフトバンクは投資機会を必要としサウジはエネルギーを必要とする。

筆者紹介

慶應義塾大学経済学部卒業(1974年3月)、1974～1980年富士銀行勤務後、1980～1983年(財)中東経済研究所出向。1983年富士銀行復職後(1月)、同行を退職(10月)。

(財)中東経済研究所・カイロ事務所長を経て、1990年同研究所退職。1990年12月～2000年9月(株)国際経済研究所勤務(主席研究員)、2000年10月～2005年3月(財)国際開発センター エネルギー・環境室長、2005年4月よりエネルギー・環境室研究顧問。中東や北アフリカ諸国の王族、政治家、政府関係者、ビジネスマンに知己が多く、中東全域に豊富な人的ネットワークを有する。専門領域は中東経済論。

※著書『「イスラムマネー」がわかると経済の動きが読めてくる!』(すばる舎、2010年)『中東のクール・ジャパニーズ』(同友館、2009年)『中東湾岸ビジネス最新事情』(同友館、2009年)『南地中海の新星リビア』(同友館、2009年)『今こそチャンスの中東湾岸ビジネス』(同友館、2009年)、『オイルマネー』(講談社現代新書、2008年)、『石油地政学』(中公新書ラクレ、2003年)

- ② それ故、大規模融資の問題を解決した上で、各局面や技術面の詳細について個々に詰めるというやり方は妥当だろう。
- ③ 但し、注目すべきは、こうした覚書の多くが結果として何も生み出していない点である。

周知のように、ソフトバンクはムハンマド皇太子がサウジの紅海岸に建設を予定している新産業都市 NEOM に最大150億ドルの投資を計画しているほか、上述した「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」は再生可能エネルギーや太陽光発電用に電力施設を多様化する努力の一環として国営企業サウジ電力社に最大100億ドルを出資する計画と言われている。

西海岸でも各種大手企業の経営者・幹部と精力的に会談をこなした皇太子

ムハンマド皇太子は3月30日、米国東海岸の訪問を無事終了し西海岸に移動した。西海岸では、航空宇宙・軍事機器メーカーや IT 機器メーカー、インターネット関連企業、娯楽関連企業などの経営者・幹部と相次いで会談し、「新生サウジ」の売り込みを図ると共に、今後の事業面での協力の可能性などについて協議している。なお、同皇太子、或いは同行閣僚の米国西海岸及びヒューストンでの主な動きは表2の通りである。

表2 ムハンマド皇太子の西海岸・ヒューストンでの主な動き

月 日	場 所	主 な 動 き
3月30日	ニューヨーク →シアトル	<ul style="list-style-type: none"> ★ムハンマド皇太子をはじめとするサウジの訪米団が、エメラルド都市と呼ばれるシアトルに向かった。 ★ムハンマド皇太子がシアトルで、ビル・ゲイツ及びメリンダ・ゲイツ財団の共同創設者メリンダ・ゲイツ氏と会談し、幾つかの共同開発プログラム及び事業の協力状況について見直した。 ★ムハンマド皇太子がシアトルで、マイクロソフトのサトヤ・ナデラ CEO と会談し、訓練・研修、サウジ人の資質・能力の向上、デジタル改革や知識集約型革新での協力について協議した。 ★ムハンマド皇太子がシアトルで、アマゾンの創設者であるジェフ・ベゾス CEO と会談し、サウジとアマゾンの協力の可能性、サウジビジョン2030に先駆けての潜在的な投資機会について議論した。
31日	シアトル	<ul style="list-style-type: none"> ★ムハンマド皇太子の出席の下、サウジ軍事産業社 (SAMI) とボーイングが合弁事業 (総額 4 億5,000万ドル) の合意書に調印した。この合意により、ジェット戦闘機及びヘリコプターの維持補修の55%超がサウジ国内で行われることになる。調印はアフメド・アル・ハティーブ SAMI 取締役会会長とボーイングのデニス A. マレンバーグ会長・社長兼 CEO が行った。

		<p>ボーイングの同会長・社長兼 CEO が「サウジ，特にムハンマド皇太子が個人的にビジョン2030を進める上で，新合弁事業の相手としてボーイングを信頼し選んで頂いたことに深謝する」（アラブ・ニュース紙 2018年3月31日）と述べてサウジを讃えた一方，アンドレアス・シュワーSAMMI・CEOは「この合意により両社がサウジ防衛部門の工業化において主導的役割を果たし基礎を構築することになった」（同上）と応え，両社で軍事品製造のサウジ化に努める考えを明らかにした。</p>
4月01日	ロサンゼルス	<p>★サウジ総合文化庁が同日からの二日間（4月1，2日），ロサンゼルスの幾つかの大学で「サウジ文化の日」を開催した。また幾つかのロサンゼルスの大学が，若いサウジ人の製作した短編映画を上映した。</p>
02日	ロサンゼルス	<p>★ムハンマド皇太子がヴァージン・ガラクティックとモジャヴィ航空宇宙基地を訪問し最新技術を見学した。皇太子は到着時に，ヴァージン・グループの創設者であるヴァージン・ガラクティックのリチャード・ブランソン取締役会会長及び各関連企業の CEO の出迎えを受けた。</p> <p>両者は，既存の投資パートナーシップ分野を見直し，宇宙サービス分野での関係の強化策，研究・製造・サウジ人訓練を通じた近代技術分野での協力深化の可能性，サウジを技術消費国から製造国に変革する方法について議論した。</p> <p>皇太子はハイパーループ・ワン社が時速700マイル（1,120km）を目指して開発中の超高速移動列車に大いに関心を寄せた。同社のロブ・ロイド CEO は，皇太子の来訪と会談がサウジで超高速移動列車（ハイパーループ）を実現させる次の局面を開始させることになるとコメントしている。</p>
03日	ロサンゼルス	<p>★ムハンマド皇太子がワーナーブラザーズ・エンターテイメントのケビン・ツジハラ会長兼 CEO 及び拡張現実感企業であるマジック・リープのロニー・アボビッツ CEO と会談した。</p> <p>皇太子とケビン・ツジハラ会長兼 CEO 及び同社企業グループの幹部は，メディア，娯楽，文化分野でのパートナーシップの機会及びサウジ人の若者を訓練する機会について議論した。</p> <p>またマジック・リープのロニー・アボビッツ CEO が皇太子に同社製品を説明した後，両者はサウジのプロジェクトでのパートナーシップ及び投資の機会について協議した。なお，サウジの公共投資基金（PIF）は，本年3月，マジック・リープに4億ドルを投資すると発表している。</p>
04日	ロサンゼルス	<p>★ムハンマド皇太子が，ビバリーヒルズのフォーシーズンズ・ホテルで「サウジ王国における将来のエンターテイメント」と題したサミットを開催し，西海岸の映画やテレビのプロデューサーなど約200人が参加した。</p> <p>★サウジ総合娯楽庁が同サミットで，世界的企業と次の4つの娯楽合意書に調印した。</p> <p>①サウジのMBSグループとシルクド・ソレイユの合意（シルクド・ソレイユが本年のサウジ建国記念日にサウジ総合娯楽庁の開催するイベントでショーを披露するという内容）。</p> <p>②フェルド・エンターテイメントとサウジ総合娯楽庁との長期パートナーシップ合意（同社が製作したアイスショー「ディズニー・オン・アイス」のような世界的イベントをサウジ国内で開くという内容）。</p>

		<p>③ナショナル・ジオグラフィックとサウジ総合娯楽庁，KBW ヴェンチャーとの合意（VR＝仮想現実により異なる10都市でイベントを催すという内容）。</p> <p>④IMG とサウジ総合娯楽庁との合意（サウジ向けの特別プログラムを製作し実演するという内容）である。</p> <p>★サウジ文化情報省国際コミュニケーション・センターが声明を発表し，世界最大の映画館チェーンであるAMCエンターテイメント・ホールディングス（以下，AMC と略す）が首都リヤドに4月18日，映画館を開設することを明らかにした。</p> <p>★ムハンマド皇太子がウォルト・ディズニーのロバート・アレン・アイガー取締役会会長兼CEOと会談し，サウジビジョン2030の枠組み内での経済協力の可能性，特に娯楽，文化，映画産業での協力の機会やサウジにおけるウォルト・ディズニーの商品・サービスに対する需要について議論した。</p> <p>★ムハンマド皇太子がロサンゼルスのエリック・マイケル・ガルセッティ市長と会談し，サウジビジョン2030の枠内での経済協力の機会について議論した。</p>
05日	サンフランシスコ	<p>★ムハンマド皇太子がシリコンバレーで，グーグルの創設者のラリー・ペイジ氏，セルゲイ・ブリン氏，サンダー・ピチャイ同社CEO と会談し，1) サウジにおけるクラウド・サービス，2) デジタル変革イニシアチブの国内技術化の可能分野，3) デジタル環境の開発，4) サウジ人若者向け研究・開発・訓練センターの設立，5) サイバー・セキュリティーでの協力強化について議論した。</p> <p>★ムハンマド皇太子が以下の投資家たちと会談し，サウジの投資機会やプロジェクトについて協議した。1) フェイスブック取締役会委員兼パラソール基金パートナー（氏名不詳），2) クラリウム・キャピタル取締役会会長（氏名不詳），3) ヴァラル・ヴェンチャー会長（氏名不詳），4) ファウンダーズ基金のピーター・シーエル取締役会会長，5) アンドリーセンの創設者兼パートナーのホロウィッツ・マーク・アンドリーセン氏，6) Y コンビネーターのサム・アルトマン会長，7) モスレ・ヴェンチャーズのヴィノッド・コシア氏，8) パラソール・テクノロジーズのアレックス・カープ共同創業者兼 CEO。</p>
06日	シリコンバレー	<p>★ムハンマド皇太子がアップルのティム・クック CEO と会談し，1) サウジにおけるアプリケーションの開発，2) 創造的な教育カリキュラムの開発に向けたアラビア語教育内容の充実化，3) サウジ人若者の雇用機会の拡大を目指したアップル本社での彼らの訓練の可能性を議論した。</p> <p>★ムハンマド皇太子がロッキード・マーチンのシリコンバレーにあるサニーベイル施設を訪問し，マリリン・ヒューソン会長・社長兼CEOと会談した。皇太子は同施設で，航空・防空・ミサイル・衛星通信の最新技術を見学した。サウジは現在，サアド防空システムの購入及び同システムの技術の国産化をロッキード・マーチンと交渉している。</p> <p>なお，皇太子は施設見学の最後に，最初のサウジ通信衛星に組み込まれる最後の羽目板（パネル）への揮毫を求められ，「雲の上，高くに（High above the clouds）」と記した。</p>

07日	ヒューストン	<p>★ムハンマド皇太子の出席の下、サウジアラムコとテクニップ FMC、ハネウエルUOPがそれぞれ米国での石油化学事業に関する合意書に調印した。</p> <p>テクニップ FMC との合意は、サウジアラムコがヒューストンに持つ石油精製を行う子会社モティバ・エンタープライズが、ナフサ及びエタンからプラスチック生産に使われるエチレンを年200万トン製造する事業の可能性を検討するという内容である。</p> <p>ハネウエル UOP との合意は、同社がイリノイに持つアロマ製造プラントでベンジン及びパラキシレン製造技術を使って、化学製品及びプラスチック向けの原料を年200万トン製造する事業の可能性を検討するという内容である。</p> <p>★ムハンマド皇太子が東部ヒューストンのハリケーン・ハーベイで被害を受けた住民の入居する家屋を運営する「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」を訪問し、シルベスター・ターナー市長と会談した。同市長はサウジアラムコの子会社の社員たちによるハリケーン被害後の救済活動に謝意を表した。</p> <p>★ムハンマド皇太子がブッシュ元米大統領を訪問し、子息のブッシュ二世元米大統領、バイカー元米国務長官と会談した。</p>
-----	--------	---

出所：各種報道より作成。

35年ぶりの映画館開設を明らかにした文化情報省国際コミュニケーション・センター

サウジ文化情報省国際コミュニケーション・センターは4月4日、声明を発表し、世界最大の映画館チェーンであるAMCエンターテインメント・ホールディングス（以下、AMCと略す）が首都リヤドに4月18日、映画館を開設することを明らかにした。映画館の開設はムハンマド皇太子が進めるサウジアラビアの文化から社会、経済、政治に至る大幅な改革政策の一環を成すもので、同国を1979年以前のような穏健なイスラム国で開かれた社会に戻すとの動きの延長線上にある。

最初の上映館には、リヤドのアブドゥラ国王金融区にある500もの革製席が設けられ、大理石のトイレが具備された劇場が当てられる。最初に上映されるのはアクション映画の「ブラック・パンサー」となる。なお、消息筋は、公共の場所とは異なり映画館では男女同席が可能になると説明している。この点については、アダム・アロン AMC 劇場社のアダム・アロン CEO も「(映画館の) 規則類は説明したように書かれており、我々の理解では男女同席となる」(<https://www.therrap.com/Saudi-arabia-movie-theaters-not-be-segregated-by-gender-a...2018/04/05>) と語り認めている。

周知のように、サウジ文化情報省が4月第1週に同国の公共投資基金（PIF）の子会社である開発投資娯楽社に映画館を運営・管理する許可を与え、同社が AMC とサウジ国内における映画館の開設及び運営・管理に関する合意書に調印していた。

なお、サウジの公共投資基金（PIF）が4月4日に発表した声明によれば、開発投資娯楽社は AMC と共に今後5年以内にサウジ国内の15都市に30～40軒の映画館を、また2030年までに約25都市で合計50～100軒の映画館を開設する予定である。両社はサウジ

映画産業で50%の市場占有率を獲得することを目標としている。

AMCは中国の不動産及び娯楽産業のコングロマリットである大連万達の傘下にある。中国の大富豪である王健林が代表者を務める大連万達は、2012年に総額26億ドルでAMCを買収し、以降グループ企業として傘下に置いている。

ところでアダム・アロン AMC 劇場社のアダム・アロン CEO は、ムハンマド皇太子の滞在中にビバリーヒルズのフォーシーズンズ・ホテルで開かれた「サウジ総合娯楽庁 (GEA) サミット」で次のように語り、ムハンマド皇太子の進める改革を称賛していた。

- ① 私は映画館の開設や女性の自動車運転の容認を含む改革が、本当にムハンマド皇太子の功績であると考えている。
- ② 映画館の開設を欲し、社会の変革を望み、AMCとサウジ公共投資基金との提携を促し、文化情報相に迅速に行動するよう求めたのも皇太子である。
- ③ 変革が皇太子のビジョンであり我が社はその一部となれたことを光栄に思う。
- ④ サウジ商業相が2017年9月、ニューヨークで、映画館の禁止は数ヵ月後に解除されると説明した会合に私は出席していた。
- ⑤ その話がサウジ公共投資基金の常務との会談に繋がり、そして、その後、同人が劇場やパートナーを探してくれるなど AMC の主要パートナーとなることとなった。
- ⑥ その時以降、我が社は全てをサウジ公共投資基金と進めてきた。

周知のように、アワッド・アル・アワッド文化情報相は昨年12月11日、以下内容の声明を発出し、35年振りに映画館の禁止措置を解除することを発表していた。この声明の発表は、同日開いた総合視聴覚メディア委員会で商業用映画館に許可証を発行する決議案が承認されたことを受けるものであった。

〈2017年12月11日の声明〉

- ① 映画産業の監督機関である総合視聴覚メディア委員会はサウジ国内における映画館に許可証を発行するプロセスを開始した。
- ② 我々は解禁後最初の映画館が2018年3月に開かれると考える。
- ③ 映画館の開設許可証の発行の決定は、サウジ国民にとって開放的で豊かな国内文化を促進するとの政府の計画の中核を成すものである。
- ④ 映画館の開設は、広範囲の文化部門を発展させることによる新たな雇用及び訓練の機会の提供、サウジ国内の娯楽の選択肢の拡大を通じた経済の成長と多角化の促進役を果たすことになろう。
- ⑤ この決定は3,200万人超の国内市場を開放することになろう。サウジ国内では2030年

までに300ヵ所以上の映画館が開設され、2,000もの映像スクリーンが設置されることになろう。

- ⑥ 映画産業は2030年までに国内総生産（GDP）を900億サウジ・リヤル（約240億ドル、約2兆6,400億円）も押し上げ、3万人超の常用雇用と13万人超の臨時雇用を創出することになろう。
- ⑦ 映画の内容はサウジの情報政策の基準に合致するものとする。
- ⑧ 映画の内容は、価値を豊かで意義深いものとし、しかもイスラム法と矛盾せずサウジの倫理価値を損ねぬよう、サウジにとって重要な価値と伝統に則っていなければならない。

アワッド・アル・アワッド文化情報相は当時、「決定はサウジの文化・経済の発展にとり重大な分岐点になる」（AFP 通信 2017年12月11日）とコメントしていた。実は、サウジ人の映画製作者は、それ以前から「ユーチューブが定着している時代に映画を禁止しても意味がない」と主張していた。またサウジ人の制作した映画は、既存の配給チャンネルを迂回し厳格な国内の検閲を避けながら、インターネットを駆使して海外で上映され波紋を呼んでいた。

例えば、サウジ人の女性監督ハイファア・アル・マンスール女史の作品「ワジュダ」は、2013年にサウジの作品として初めてアカデミー賞の候補になっているし、2017年には、サウジ発のロマンチック・コメディである「バラカ・ミーツ・バラカ」がベルリン国際映画祭で封切られ話題を呼んでいた。

世界の映画関係者の中には、サウジが2030年までに世界でも上位10ヵ国に入る市場になると予想する者もあり、彼らの多くは同国を中国に次ぐ新たな有望市場であると大いに期待している。

ムハンマド皇太子の米国訪問は、これまで見てきたように皇太子の意図していた同国の経済改革や新規大型事業に対する米国企業への理解を深め関心と呼ぶことには成功したといえる。問題はムハンマド皇太子と会談した米著名企業やセミナーなどに参加したその他米企業が、サウジ側の望むように同国への進出を図ることになるのか否かである。皇太子を圧倒的に支持するサウジの若者や女性の雇用の創出がかかっているだけに、今後の米国企業の動向を注視していきたい。

* 本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。